

EFL 社会科系授業読解への2つのアプローチ

Two Approaches to Reading in an EFL Social Studies Class

ロバート・ゲティングス

Robert E. Gettings

Abstract

This study compares two approaches to reading in a large class setting. Two kinds of materials (SRA Dimensions and MacReader-computer software) were used in a US History class. The materials were useful in providing students with access to individualized instruction but there were problems with both the materials and the approaches used. Use of a computer provided automatic presentation of reading materials and recording of the results of the reading session. This reduced the amount of time the teacher spent assisting the students in making reading selections and thus increased the time which could be used to improve classroom management. A computerized series of readings which includes the strong points of both materials, with a well organized subject index, automated vocabulary and comprehension checks, and an adaptable glossary which includes jargon and social studies terms will be developed and tested in future US History classes.

序 論

本研究の目的は米国史講義の際に用いられる2種類のリーディング教材使用へのアプローチについて検討し、教材の改善点を導き出すことである。米国史の講義は本学英文科2年生で開講されており、受講者の比較的多い、「外国語としての英語」(EFL)のクラスで、授業のねらいは学生の英語力の強化を助長し、さらに学生の知識や学力に応じた内容を紹介することである。たとえそれが読解力をつける目的のクラスでなくとも、社会科系の授業において読解力は英語力の中でも特に必要とされる。本研究では、それぞれに特徴のある2つの授業教材を用いて実験的な授業を展開した。その一つはレベル別の物語カードを使用したもの、もう一つはコンピュータの使用によるものである。

本学学生の英語力は中級の下から上級まで幅広く存在し、学習意欲の点で問題を持つ学生も多い。学生の約半数近くは授業に興味を持たず、英語学習そのものにも興味を持ってない学生も多い。学生の学習意欲に影響する3つの要素は、内容が個々のレベルに対応していること、結果を知ることおよび興味ある内容や事柄である (Forgan and Mangrum, 1985)。学生の読解力に応じ、個々のレベルに合うように選択された読み物(教材)は、学生が興味を持つ分野を追求できる。同時にそれぞれの学生の読解結果記録が残り、教師と学生の両方に提供される。課題選択の目的は、情報を得ることと社会科学学習に役立つ語彙に慣れることの2つである。

Science Research Associates (SRA) Dimensions (段階別リーディング教材) は学生が歴史物語中で興味分野を選択できるように作

られた教材である。マッキントッシュコンピュータのソフトウェアである MacReader は、学生が米国史における全般的背景を知る手段として現在得られる最適なものと考えられる。これらの2つの教材 (SRA と MacReader) は学生にも理解しやすく、体系的でしかも継続的に個人のペースで学習できるように作成されている。それぞれの課題は簡潔で体系的に処理されている。SRA は個々が関心を持つ段階別リーディング教材として大規模クラスでの使用の可能性がある。また、MacReader は学生が米国史の全般的背景や、社会科についての語彙を知るための教材として高い可能性を有している。学生の読書態度の向上と教師のクラス運営に対して、教材としての SRA や MacReader 導入の影響とその効果は興味深く、本研究の成果は今後の授業内容の発展に大きく寄与するものと考えられる。

使用教材の特徴と使用上の問題点

1. SRA Dimensions について

SRA Dimensions は米国史カード240枚で構成されている。それぞれの物語は400から1100語で書かれており、内容はスポーツ、奴隷制度、仕事を持った女性についてなどで、米国の学校の3から9年生レベルの範囲である。それぞれの物語には10問の理解度テストが付属している。学生は低いレベルから始め、最初の3段階では10問中7問の正解で次のレベルに進むことができる。

学生には到達目標として、5週間に5から10の課題図書がSRAの中から与えられ、個々の興味や難易度に応じて物語カードを選べる。カードを読み質問に答え、パンフレットを見ながら回答しその点数をクラスノートに記録する。クラスの半数の学生は一年時の

reading class ですでに SRA を経験していた (Christensen, 1992)。

教材のレベル選択は、カードに難易度が記録されているので簡単に行える。低い難易度の選択に大半の学生が集中するために、3枚ずつの同じレベルのカードはすぐに無くなる傾向を持っている。しかし、学生は240枚のカードを一枚ずつ見ながら興味あるものを見つけなければならないため、そのトピック選択は難しい。低いレベルのカードが他の学生に選択された後、残された学生は自分の興味と言うよりも、残ったものの中でより低い難易度のカードを求める傾向がある。しかし、中には自分のレベル以上のカードを選択する学生もいる。また、カードの中には文化的な背景を知らなければ理解不可能なものも含まれている。与えられた20から30分間で、課題を終了した学生の数は多くはなかった。

クラスの学生の半数から2/3は学生が間違えて置いたカードを探すのに時間を費やさなければならず、他の問題や読んでいない学生のために時間を割くことができないなど SRA リーディングセッションのクラス運営の困難さが指摘される。

2. MacReader について

教師により植民地時代から戦後にかかる27編のリーディング教材が選択された。リーディング教材は200から400語で (FLESCH および FOG の基準)、米国の学校で言う6から7年生のレベルに相当するものである。

学生はマッキントッシュコンピュータで MacReader を使い、教師が選択した全てのリーディング教材を学習させられる。教師は学生に教材をそれぞれ2回読ませる。最初に物語の要点をつかませ、2回目は注意書きの例文や意味を探るためにゆっくりと時間をかけ、わからない言葉を選びながら読ませた。

コンピュータには読む速さとわからない語彙が記録され、リーディングセッションの記録としてプリントでき、教師に提供される。

ほとんどの学生はコンピュータとソフトウェアに慣れることができたが、いくつかの操作上の問題が発生した。これらは、米国史のソフトウェアをマッキントッシュの中から探すのに手間取ること、探し当てて以前読んだものであったり、それがスクリーン上の間違ったところに配置されていたりするようなことであった。また、画面が凍結状態となり学生の課題が消えてしまうことや記録をプリントできないような事態も発生した。しかし、ほとんどの問題は単純で簡単な方法で解決できた。初心者はこのような問題に陥りやすく、多くの学生にとって解決困難であったことも事実である。

語彙の確認は困難で、社会科の語彙、つまり人名、場所、歴史的事実などは MacReader の注意書きには掲載されてない。このために、他の文献で検索しても一般的な語彙の意味は記されているが、社会科的意味合いとは異なることが多い。そのために学生がどの程度まで語の意味を理解しているかを判断することは困難である。MacReader では調べきれない。

教師は授業の約 1/4 の時間をコンピュータ関係の問題に時間を費やす。学生がきちんと実施しているかどうかはスクリーンを少し見るだけで理解できる。リーディングセッションのコンピュータノートはセッション中の学生のアクティビティの時間を記録し、教師と学生との間で行われる討論の際に参考とする。また、解決策を素早くスクリーンに示すことができる。プリント出力されたノートを授業後に検討することで、授業中に気付かなかった問題点を知ることができる。これらのことから SRA よりも学生の学力の向上を観

察し、個々の問題に対して討議時間を多く持つことが可能である。

教材の使用結果とその比較検討

1. SRA Dimensions へのアプローチ

学生がカードを見つけるのに精一杯であるため、SRA Dimensions の使用は深いところまで興味を継続し得るテーマを、個々に探究し難いと言う点で目的を達成し難い面がある。1キット (240カード) は、60名のクラスには不十分である。SRA は選択が困難で、体系的に探究を行い難いと言う点で目的を達成し難い。手引書には各カードの要約があり、教師が学生のカード選択を補助することが提案されている。使いやすい索引と複数のカードがあれば大規模なクラスであっても SRA の使用は容易になると考えられる。

2. MacReader へのアプローチ

MacReader の使用は米国史の全体的背景を学生に紹介する点で目的に合致している。教師がソフトウェアを使い情報を操作して掲示することにより、目的達成が可能であった。コンピュータリーディングにより、学生は自分の興味ある分野を学生自身で見つけられる。学生の中には SRA やクラスで行わなかったテーマで (コンピュータリーディングの中にある) レポートを書いたものもいた。ソフトウェアの使用は新しい社会科用語を出すと言う点では効果はそれほど認められなかった。また、注釈は社会科のリーディングのためには作られていないために、教師が注釈や用語を加えるか、テキストに意味を付加するなどの操作により問題を解決できると考えられる。MacReader には理解度のチェック機構が無いため、学生の理解度と MacReader による掲示物の記憶の程度を明確には判断できない。

コンピュータの理解度チェックと単語や用語のドリルやテストを実施することで、ソフトウェアリーディングをクラスで使用するための利便性の向上を図れるものと考えられる。

結 語

コンピュータの利用は即座にリーディングを進め、自動的に結果を登録できる。そのため、教師および学生にとってリーディング選択の上で無駄な時間を省略でき、容易に授業を進めることができる。SRA Dimensions と MacReader の併用は、大規模クラスで学生一人一人の要求に答えるために最も適切であると考えられる。必要な改善点をあげると、分かりやすい目次にすること、リーディングシリーズのコンピュータ化、オートマテック化された単語用語や理解度チェック機構、取り付け可能な注釈（特殊用語や各分野の単語用語の意味）などを付加することである。今後の米国史の授業で改善した教材を作成し、試験的に実施することを考えている。

引用参考文献

- Forgan, Harry W & Mangrum, Charles T. (1985) Teaching content area reading skills. Columbus, Ohio: Charles E. Merrill Publishing Company.
- Christensen, Torkil, (1992) Teaching reading to first year college English majors. Journal of Hokusei Gakuen Women's Junior College, 28: 39-51.